

# IBD

## LETTER

アイ・ビー・ディー・レター

vol. **45**

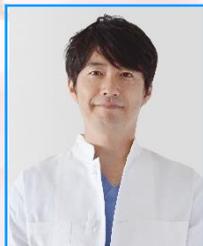
社会医療法人社団高野会

大腸肛門病センター高野病院

熊本市中央区大江3丁目2番55号

TEL.096-320-6500 FAX.096-320-6555

【監修】炎症性腸疾患センター長 高野正太

<http://www.takano-hospital.jp>

## 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対するワクチン接種について

副院長:高野 正太

日々報道されているように、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対するワクチン接種が日本でも開始されました。IBD患者さんは免疫に関する薬を使ったり、色々と不安があると思います。現時点でのIBD患者さんと関係するCOVID-19ワクチンの情報をまとめました。但し、情報は日々更新されますので、厚生労働省や日本炎症性腸疾患学会のホームページなどでご確認ください。今回、前出のホームページを参考にQ&Aを作成しました。また、ワクチンを受ける際は事前に必ず主治医に相談するようにしてください。

### そもそもワクチンとは？

人間の体には一度感染したウイルスなど外敵を記憶し、2度目の感染を防ぐ「免疫」というシステムがあります。免疫ができることで、その感染症に再びかかりにくくなったり、かかっても症状が軽くなったりするようになります。

予防接種とは、このような体の仕組みを使って病気に対する免疫をつけたり、免疫を強くするために、ワクチンを接種することをいいます。

(2021年2月15日時点での情報)

※情報は変更になる可能性があります。

Q1 IBD患者さんが接種を受ける順番は？

A 現時点の情報では2月17日から下記の順番で接種が行われることが報じられました。

- (1) 医療従事者等
- (2) 高齢者（令和3年度中に65歳に達する、昭和32年4月1日以前に生まれた方）
- (3) 高齢者以外で基礎疾患を有する方や高齢者施設等で従事されている方
- (4) それ以外の方

IBDはCOVID-19の重症化リスクには含まれていないため、寛解期においては「基礎疾患」に該当しない可能性があり、いわゆる「一般の方」と同時期の接種になると考えられます。しかし、ステロイドや生物学的製剤、免疫抑制剤の投与を受けているIBD患者さんは、基礎疾患を有するものに含まれる可能性があり、今後の情報に注意してください。

Q2 ワクチン投与のIBDへの影響は？

A 炎症性腸疾患研究国際機構（IOIBD）の提言によると、ワクチン接種はIBDの発症、増悪、再燃とは関連しないとされています。



Q3 ワクチン接種前後で免疫抑制剤やステロイドは継続すべきですか？

A 現時点でステロイドや免疫抑制剤が、このワクチンに与える影響は分かっていません。通常のワクチン接種の場合、免疫抑制剤やステロイドを中止・減量することはありませんので、接種前後で免疫抑制剤やステロイドは変更せず継続すべきと考えます。IOIBDの提言でも、生物学的製剤の有効性や安全性が低下することはないとされています。



Q4 どこで受ければよいのでしょうか？

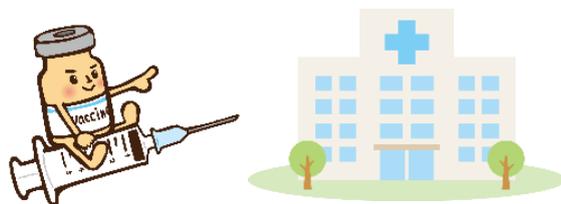
A 原則として、住民票がある市町村（住所地）の医療機関や集団接種会場で接種を受けていただきます。インターネットなどで、ワクチンを受けることができる医療機関や接種会場を探すための接種総合案内サイトが設置される予定です。そのほか、市町村からの広報などでご確認ください。

基礎疾患で治療中の場合は、通院中の医療機関でワクチンを受けることができます。（ワクチン接種を行う医療機関に通院中のIBDの患者さんは、かかりつけ医で受けることができます）当院も接種医療施設に登録される予定です。集団接種会場で受けるかどうかは患者さんが選択します。

但し、かかりつけ医以外で接種する場合は、事前に受けて良いかどうか、受けるタイミングに関して主治医に指示を受けておいてください。

Q5 手続きは？

A 次のような方法で接種を受けることになります。  
（次ページへ続く）



- (1) 接種の時期より前に、市町村から「接種券」と「新型コロナワクチン接種のお知らせ」が届きます。
  - (2) ご自身が接種可能な時期が来たことをご確認ください。
  - (3) ワクチンを受けることができる医療機関や接種会場をお探してください。
  - (4) 電話やインターネットで予約をしてください。
  - (5) ワクチンを受ける際には、市町村より郵送される「接種券」と「本人確認書類（運転免許証、健康保険証など）」を必ずお持ちください。
- なお、接種費用は全額公費（無料）です。詳しくは、お住まいの市町村にご確認ください。

Q6 ワクチンの副反応について教えてください。

A 各社のワクチンの治験における主な有害事象は以下の通りです。

- ・ファイザー社 : 軽症から中等症の接種部位の疼痛（初回接種時70%以上）  
倦怠感・頭痛（50%以上）、ワクチン関連と判断された死亡なし
- ・モデルナ社 : 接種部位の疼痛 86.0%
- ・アストラゼネカ社 : 重篤な有害事象は実薬・プラセボで差なし  
実薬群で横断性脊髄炎3名発生



このため接種後、15分～30分程度の観察がその場で必要となります。アレルギーの既往（喘息、じんましん、食物アレルギー、スギ花粉症、薬物アレルギーなど）がある方は、長めの観察時間を要します。特にアナフィラキシーの既往のある方は要注意です。接種するかどうかを含めて、必ず主治医に相談をしてください。

## 炎症性腸疾患の新規活動性マーカー『LRG』について

臨床検査技師：中野 祐介

### LRG（ロイシンリッチα2グリコプロテイン）の登場



炎症性腸疾患に対する治療指針は、病態コントロールと再燃予防です。

今までは、採血や内視鏡検査による病状の確認と各種薬剤を適切に組み合わせることで、治療が行われてきましたが、血液検査にて腸管粘膜病変の活動性を反映する有用な指標がないことが、治療におけるひとつの課題でした。そこで登場したのがLRGです。

LRGとは、血液中に存在する蛋白質で、炎症局所で産生される血清バイオマーカーとして検査可能です。2020年6月より新規検査項目として保険適応となりました。

LRGは、従来の血液マーカー（CRP）よりも、内視鏡検査による疾患活動性の評価と強く相関するため、治療に伴う疾患活動性の変化を簡便かつ適切に評価でき、不要な内視鏡検査の回避、治療薬の増減や変更を判断する一助として活用されています。但し、現時点では3カ月に1回しか測定できないことになっています。

炎症性腸疾患における活動期の判定補助として使用されています。  
基準値は  
16.0未満(μg/ml)です。



白身魚の雪花蒸し  
(レンジ調理)

【1人分あたり】



【材料】

白身魚70g	1切れ	～餡～	
塩	ひとつまみ	だし汁	30cc
酒	適量	塩	少々
卵白	大さじ1	薄口醤油	小さじ1
塩	少々	濃口醤油	小さじ1/2
長芋	20g	片栗粉	小さじ1/2
かぶ	40g		
だし汁	30cc	～飾り～	
柚子果汁	小さじ2	人参(花型抜き)	1枚
酒	大さじ1	三つ葉	1本
		柚子の皮(松葉切り)	1枚

※千切りでも可



作り方

【下準備】

- ①魚は半分に切る。
- ②人参(花型抜き)、三つ葉は下茹でし、三つ葉は1cm程の長さ切る。
- ③長芋・かぶは皮をむき、すりおろして、水気を軽く絞る。
- ④柚子は皮を千切りもしくは松葉切りし、残りは絞っておく。

【手順】

- ①白身魚は流水できれいに洗い、水気を拭いて耐熱皿に並べ塩と酒をふり15分浸しておく。
  - ②①にだし汁30ccとゆず果汁小さじ2、酒大さじ1を入れ、ふんわりラップをして電子レンジ500Wで2分加熱し、2分蒸らす。  
(加熱後ラップを剥がす際、蒸気で火傷に注意)
  - ③卵白に塩を入れしっかり泡立て、すりおろした長芋・かぶと合わせておく。(混ぜすぎに注意)
  - ④②に火が通ったら、耐熱皿から魚を深めの盛り付け皿に移し、③を魚全体を覆うようにつけ、ふんわりラップをして、500Wで1分加熱する。
  - ⑤餡の調味料を小さめの耐熱皿に入れ、混ぜたら電子レンジ500Wでとろみがつくまで数回に分けて1分半加熱する。  
(30秒を3回)
  - ⑥出来上がった④に⑤の餡をかけ、三つ葉と型抜きした人参、飾り切りした柚子を盛り付けたら出来上がり。
- ※盛り付けで使用した柚子は香りづけです。

新担当医のご紹介



なかむら やすし  
中村 寧 医師

外科の中村寧と申します。これまではIBD領域には主に肛門病変や内視鏡検査などでたずさわってききましたが、4月からは外来診療のお手伝いもすることになりました。患者さんのお役に立てるように勉強しております。IBDは勉強するほどに奥が深い領域であり、新しい薬や治療もどんどん出てきているので、遅れることなくついていき患者さんの治療に役立てていきたいと思っております。

医者になって24年、高野病院は11年になります。現在は内視鏡センター長と医局長もやっています。最近の趣味は料理と読書。(料理はそこらの女子には負けないくらいのスキルと思っています。)週末は家族に手料理を振る舞っておりますが、おおむね好評です。

読書は何でも読みますけど、最近はおっぱらライトノベルばかりになってしまっています。面白い本があったらおすすめください。

はじめは不慣れな点も目につくことが多いかもしれませんが、患者さんからもご指導いただくつもりで取り組んでいきたいと思しますので、よろしくお願いいたします。

